

児童5人死傷でも罪が軽くなる

千葉・八街 飲酒暴走 事故



梅澤洋容疑者60

6月29日、移送のため千葉県警佐倉署を出る容疑者

容疑者母が
本誌だけに語った胸中

「息子を死刑にし

「例えば基準値の3倍になる数値だったならば、へべれけ状態であり通常の判断ができない状態で運転していたことになる。そうなれば、危険運転致死死傷が認められることになるでしょう」

容疑者の飲酒について、母親はこう話している。「家ではほとんど飲まないんですけど……。息子はお酒に弱いんです。荷物を降ろして、あとは会社に戻るだけだったので、気が緩んだのかもしれません」

「今回の事故は、行政にも責任の一端があると思っています。八街市の市議会関係者は、次のように話す。

「さまざまな条件がそろえば、梅澤容疑者の危険運転致死傷が認められない可能性も出てきます。そうすると、過失運転致死傷に戻るわけですから、より罪が軽くなる」

「ここだけの話だけど、このあたりで飲酒運転しているドライバーはかなり多いよ。車がなければ生活できないところですから、どうしたって飲んじゃうじゃない」

「さままな条件がそろえば、梅澤容疑者の危険運転致死傷が認められない可能性も出てきます。そうすると、過失運転致死傷に戻るわけですから、より罪が軽くなる」



可能性も



容疑者の車がぶつかった電柱は、その衝撃で斜めに傾いた

てくれ」

「右側の老人ホームから人が飛び出してきたので、左にハンドルを切った」

「時間がたつて落ちてきたら、息子を死刑にでもなんでもしてくれ、殺してください。という気持ちになっていきます。こんな酷い事故を起こしたんだから……」

「容疑者がどのくらい酩酊した状態にあったかが量刑の大きなカギとなるでしょう」

「現場の市道は、路側帯もガードレールもないんです。2車線で道幅は7mほどと狭く、センターラインさえなかった。近くの道で、6年前にも児童が負傷する事故があったので、いつ大事故が起きてもおかしくないと考えていました」

「容疑者はこの日、都内の建設現場で荷物を降ろし、帰宅する途中で事故を起こしています。そして市道左側にある電柱にぶつかって、そのままの勢いで40m先にいた児童の列に直撃しました」

「容疑者はこの日、都内の建設現場で荷物を降ろし、帰宅する途中で事故を起こしています。そして市道左側にある電柱にぶつかって、そのままの勢いで40m先にいた児童の列に直撃しました」

「息子がこんな、とんでもないことをしてしまつて、本当に申し訳ありません。亡くなった子どもさんや、その親御さんに、どう言つて謝つたらいいのか……」



事後現場に花を手向ける被害児童の友人とその保護者

6月28日、千葉県八街市の市道で大型貨物トラックが児童の列に突っ込んで5人が死傷。さらに運転手の体内からは基準値を超えるアルコールが検出された。悪質極まりない事故に思えるが、実は容疑者の量刑が軽くなる、可能性もあつて……。